

新聞やテレビが絶対に書かない「ホリエモン」こと「堀江貴文」の真実

～ロングインタビュー前編～

堀江貴文

娯楽の為にみんな働いているようなもんじゃないですか。人間が楽しむために人間が働くみたいな状況になってるんですよ。だからもうある意味ゲームなのかな、っていう。

TEXT: by GIGAZINE 編集部



ホリエモンと言えどもはや日本全国で知らない者はいないほどの著名人である堀江貴文氏のことですが、その実像に関しては一方面的な側面からのみ報じられることが多いというのがこれまでの実情です。報道だけを通して「ひたすら金儲けに邁進して、みんなわかっているのに知らないこととしてウソをついている」というように扱われているのですが、必ずしもそうではない部分があったというのを誰も理解していないように思えます。完全な善人や完全な悪人といったものは存在するわけがなく、人間には良い面も悪い面も同じように存在するはずだからです。

今回の取材はホリエモンの「六本木で働いていた元社長のアメブロ」にて取材直前まで書かれたインタビューすべてを読み込んでからするため、ブログを読めばわかるよ

うな事柄についても「GIGAZINEの読者にはブログを読んでもいない者もいるはずだ」という前提に立っており、あえてブログに書いているような内容であっても触れています。

一般のマスメディアがなぜ報じない、本当の「ホリエモン」の姿が明らかになるロングインタビューは以下から。

（もくじ）

■ インタビューについての大前提としての数々の考え、そして疑問

■ ホリエモン到着、インタビュー開始

■ 会社が成長していく中、どこまで把握できていたのか？

■ 会社が巨大になっていく過程、その中心で見える光景とは？

■ 「お金で買えない価値」というまやかしの言葉に踊らされてはいけない

■ 終身雇用制と実力至上主義について

■ 政治と経済について

■ 仕事のスタイル

■ ビジネスとしての工夫いろいろ

■ ホリエモンの生き方、本音で生きるということ

■ ホリエモンの考える友達・友人・親友

■ インタビューについての大前提としての数々の考え、そして疑問

そもそもライブドアは何十年もかけて少しずつ地道に大きくなっていった会社ではなく、ジェットコースターであつたという間にっぺんまで上がっていった会社でした。その中で「日何千通ものメールを見て、テレビに出て、報道の前に出て、どの部署が何をしているのかをすべて知っているとしたら、その人は24時間では足りない

いはず。社員が何を言っているのかわからないが、イエスということもあるはず。急激な発展の裏で起きたこと、掌握できなかったこと、世間一般常識の社長の状況とは違う状況にあったということをもっと説明しないと世間の人は誰もわからないのではないか？その疑問が今回のインタビューを行うきっかけとなりました。

社長であれば会社のことはみんな知っているはずだ、みたいな風潮があるのですが、あれは絶対にウソだと考えています。どの会社でも部門のトップがすべてを掌握しているかというところではない。どれぐらいの人数なら見渡すことができる、何人ぐらいから全体の末端に至るまでがわからなくなってきたのか、そのあたりも考える必要があるはず。そう、会社はある人数から上になってくると、目が行き届かなくなる時点というものが必ず出てくるはずな

のです。部署を分けて専門化しなければならなくなる。それは堀江氏の場合、一体何人からだったのか？

また、ライブドアで例の事件が起きる半年前には既に私はこのGIGAZINEを始めるために退職していたのですが、ライブドアで働いていた当時、ちょうど私の斜め後ろあたりに堀江氏の机があり、普段からよく見る機会があったのですが、「時間とお金にはきっちりしており、几帳面でこまめ、普通の人以上にしっかりしている」という印象がありました。

そして、堀江氏は会社の全貌をメーリングリストで掌握するた
め、日報を全員に義務づけていたが、知る限りではおはようからおやすみまですべてを書いているのは今回のインタビューとなる私だけでした。全員のメールをチェックさえすればすべてがわか

ると思っていたのかどうかも重要です。というのも、メール自体に死角があれば、それが相似形で大きな影となって堀江氏の死角になったのではないかと考えたためです。死角の影が重なっていつて、まったくの暗闇ができあがったのではないか。それがメールの限界だったのではないか。これらを踏まえた上で、今ならどうやって巨大な組織を掌握すればよいと考えているのか、何か有効な方法はあるか、あるいは仕組みはあったのか、もしくは当時はなかったが今であればこれを使うという「何か」はあるのか？

そういった数々の疑問をこれまで誰もまともに堀江氏にぶつけてはいませんでしたし、また、ある意味で「失敗」してしまった堀江氏について、何がその原因であったかを深く考えたケースも調べた限りではありませんでした。すべてが表層的な偽りの事象のみをな

ぞっており、もともとの材料が不足しているため、そこから導き出される結論も歪んでしまっていたのです。

今回のロングインタビューはもろもろの疑問を解決するための「手がかり」を探すため、多岐にわたった質問をしており、かなりプライベートなこと、思想的なこと、当時のことなどなど、あらゆる方向へ話は縦横無尽に展開していきます。本来のインタビュー記事であればそれらの時系列などは無視してわかりやすく組み替えるのですが、今回の記事ではインタビュー中の「思考の流れ」「変化」をより実感してもらえるように、あえてそのままの状態を提供しています。

では、どうぞ。

堀江貴文

■ホリエモン到着、インタビュー開始

その時一応、一番最後に堀江さんに面接していただきました。

すごいじゃないですか、

GIGAZINEさん。

——今回は2時間もインタビューのために特別に時間を割いていただいて、本当にありがとうございます。一応、ブログの方で飲み物はコーヒーよりもお茶が好きで、こういう場ではペットボトルのお茶でかまわないように書いてあったので、いろいろとペットボトルのお茶を揃えてみました。

ありがとうございます。

GIGAZINEさんは大阪なんですよ。ね。

——そうですね、大阪です。そこからソフトバンククリエイティブ

の編集部においてそこで嫌気がさして、そこでちょうどライブドアが

報道部門の記者などを募集していたので、ライブドアニュースのコンピューター部門に行きまして、

や、それは無謀すぎるよ。せいぜい趣味の領域にとどめておきなよ」って言われましたから。

いいですよ、だってあとからどんどん来てますもんね。

——今回の取材についてですが、この質問事項みたいなのを一応事前に見ていただいたと思うのですが、中には「ブログを読んだけれど、中には「ブログを読んだけれどわかるだろ」って項目もあったりするんですけど、私自身は一応取材前にちゃんとブログを全部読んできていますので、それでもなおあえて質問する、ということですので……。

はい。

——それでもまあ普通の人は、普通の人はどうか、多分まあ全部読んでる人は希有だろうというところで。だから質問事項もブログに書いてることと重なるところがあるんですけど、そのあたりもちよつとご了承していただければと思いますので。

——個人的にはなんとか成り立つようになって非常にうれしい限りです。相変わらず赤字なので経営者としては失格ですが……。

普通に成り立ってるでしょ？

——一昔前だったら絶対に無理でした。大学の先生とかに

GIGAZINEみたいなのをやって生計を立てたいと言ったときに「い

あ、ありがとうございます。

——いえいえ。前の社長ブログも閉鎖する直前まで全部読んでいました。

あー、ありがとうございます。



■会社が成長していく中、どこまで把握できていたのか？

年くらいかかったのでしょうか？

2年くらいでしょうね。たぶん

相手を評価し、その結果に基づいて給与を決定するシステム）なのですね。

—— 一番最初の質問がですね、個人的にすごい興味あることなんですけど、会社がどんどん少いずつ大きくなっていくじゃないですか。大きくなっていく段階で一番

—— そうなったら末端まで目が行き届かないような状態になったわけですか？

それが多分1998年とかくらのころなので、多分その頃に作ったんじゃないですかね。

最初だったら社員の数というのはまあ片手で数えられるくらい、両手で数えられるくらいでまあ10人未満ですよ。だったら全員が、何をしているかというのに対して目が行き届くのですけれども、ある一定以上の人数になってくると、もう誰が何をしているのかわからなくなってきましたよね。堀江さんの場合は社員が何人くらいになってから「あいつ何やってるかわかんないな」という状態になり始めましたか？

1年でそうだね、15人くらい居たかな。バイトを入れて15人くらいだったと思うのですけど。やっぱりわからなくなったのは2年目くらいですね。そうすると、給料を決めるのが面倒になって。最初は全部自分で全員の給料を決めていたのですけど、それをもうシステムマチックにしないと、これ以上増えたときに無理だと思って、給料を決めるシステムを作ったんですよ。

—— 要するに、末端まで目が行き届かなくなって、給料とかそのあたりを決めようにもよくわからなくなってくる、という感じですか。じゃあそれまではもう全部、堀江さんがしていたわけですね。

もう自分が全部知ってるから当時はまだできていたわけです。ただ、1999年くらいに初めて給料を

ちよろまかしてる奴が社員で出てきました。残業代不正請求みたいな感じですよ。会社ですと寝てるだけっていう。入社1年目のヒラ営業なのに給料90万とかって何だこりや、みたいな話になって。

—— それはひどいですね。

■会社が巨大になっていく過程、その中心で見える光景とは？

—— 会社が巨大になっていく過程というので、みんなから注目されはじめた時期というのはもう完全にある程度の規模になった頃だったと思うのですけれども、あれは厳密に言うと、社員の人数がどこかの時点で突然どかーんと増え始めたのですか？それとも、なんだかんだ言いながらずっと同じペースで増えていたのでしょうか？私は途中から入社したので、最初から大きな状態のライブドアしか知らないのですが……。

そうですねー。徐々にやっぱり増えていった感じですよ。徐々に増えていったんですよ。

大体30人くらいじゃないですか

—— それがライブドアの「360度評価システム」（自分を含めた複数人の人間が社内サーバ上にあるウェブフォームから数十の項目で

—— どこかの段階で突然ボコッと増えたとかではなく？

—— 30人くらいまで増えるのに何

—— 30人くらいまで増えるのに何

—— 30人くらいまで増えるのに何

堀江貴文



ではないですね。新卒採用もやっていないから、常にずっと採用してるような状況じゃないですか。

——それとあと気になるのが、私もそうだったんですけど、一番最後に社長面接をやっていたのですが、あの社長面接で落とす場合っていうのは、どういう基準で落としていたのですかね？

なんか、フィーリングみたいな。

——フィーリングというところ？どういうような？

能力チェックとかってのはある程度事前の面接などでやっぱみんながこつこつやってるわけで、スキルの相当問題がある人みたいなのはあんまり入ってこないんです。でもなぜ社長面接やるかっていうと、実はやらなかった時期

すらあったんですよ、時間がなくて。2年くらいやっていない時期があつて。そういう時期に入ってきたヤツは結構、その、不幸な死に方したりとかして、あ、これはまずいと思ったんです。

——不幸な死に方？

1人は交通事故で亡くなったんですけど、帰宅途中に、バイクで雨の日に、ちょっとかわいそうな死に方しちゃったんですけれど。もう1人は、あ、もう1人は死んではないな。飛び降り自殺をしようとして。まあ女の子にふられてとかいうそういう話で。

——要するにメンタル的に弱い、みたいな人とか？

要は「負のオーラ」みたいな。なんかこう、話しててわかるような感じで、なんかこいつちょっと、やばいなーと……

——ブログでも「裁判所は負のオーラが漂ってる」とかすごいことを書いてましたけど、ああいうような感じですか？

なんとなく、話しててわかるような、なんかいやーな感じ、で決めてたりとかしましたね。社員が自殺してしまえば仲間内にも動揺が走りますし、仕事も当然ですけど、私生活においても影響を及ぼしますし、人生の根幹が揺らぎますよね。要するに、人は何のために生きているのか、という根源的な問題に突き当たってしまます。

——なるほどなるほど。私もライブドアの最終面接で社長面接を受けたのですが、何か質問されるのかなーと思ったら、何か特に質問されることもなく、堀江さんが次のビジネスはああやってこうやって……と語る話をなぜかずっと聞

かされて、あまり質問をされなかったので、「あれ？これどういう基準で選んでるのだろう？」と思っていましたよ。

でも落とされる人はあんまりいないですよ。でもたまにいますですよ。こいつはさすがに……つてのが。あと部署によっては、なんかこう、焦って、人足りねーとか言って焦って、どうでもいいやつを採用する人がいるので、そういうのをやめさせるとか。「あいつはさすがに要らないんじゃないの」っていう感じでやってたんですよ。

——なるほどなるほど。そういうことなんですね。

基本的にあんまり落とされないですよ、社長面接では。

■「お金で買えない価値」というまやかしの言葉に踊らされてはいけない

——ちょっと話は変わるんですけども、堀江さんのブログのエントリーを全部読んでみると、日本の価値感みたいなのは変なのが多いよねーみたいなことが結構書いてあるんですけど、日本の価値観で言うと、「お金を儲けること」を悪いこと、いけないこと、みににする風潮がそこはかとなくあつたりするじゃないですか。要するに儲かるのを、いやがり、嫌い、忌避するみたいな感じの考え方が。でも欧米とかだと日本とは逆で、物に値段がついてない、無料である、という方が何か「失礼なこと」というような価値観がちょっとあるのですよ。というのも、「働くこと」それに対する代償としての利益がもたらされる、だからそれは正しいことだ」という考えが欧米では普通なんです。

けど、日本は全然そうじゃないじゃないですか。働くこと＝自己実現みたいな感じになっていたりとか。そういう事に関して、堀江さんから見てどういう風に思いますか、働くことについていうのはどういふものかなーっていう感じ

で。
だからその、一般的な話をする
と、僕的にはみんな結構好きなことをやってんじゃないの？みたい
な気はすごいするんですよ。昔
はこう生きるために働く、みたい
なのがあつたじゃないですか。つ
い100年から150年前くらいまでは人
間って生きるために働いていたん
ですよ、ほとんどの人間は。明
日の食い物を作るために農業やつ
たりとかしていたわけじゃないで
すか。それが今はたぶん違うと
思うのですよ、僕は。だからそこ
が、まず一つの問題で。働くこと
は尊いことだとか色々言うけど、
いわゆる「本当に生きるために働

いてる人」なんてほとんどいない
んじゃないかなって僕は思うので
すよ。そういう世の中なんだか
ら、こう、なんか食うためにつて
のはちょっと違うんじゃないかつ
て思ってるんですよ。みんな半
分余暇なんじゃないかな、と。

——なるほどなるほど。

だって前はさ、朝起きて、起
きてから朝から晩まで働いて、要
は太陽が出ている間はずっと働い
て、夜は寝るみたいな生活をして
いたわけでしょ。それがイギリス
で産業革命が起きて、まあもつと
言うとその前に農業革命が2000年前
くらいに起きて、狩猟採集の生活
から人間は解放されて人口が飛躍
的に伸びるんですけど、それは要
は食料の安定供給をある程度農業
技術が発達してできるようになっ
たから、たくさんの人たちを養え
るようになったからそういう風にな
ったわけでしょ。それからその

堀江貴文

千何百年たって産業革命が起きて、蒸気機関が人間のかわりに仕事をしてくれるようになって、初めて人間は余暇の時間を持てるようになったんですね。それまでは一部の王侯貴族の本当に限られた少数の人しかそういうことはできなかったわけで。

——確かに。

イギリスで初めてそういうことが起こって、それで庶民の娯楽ってものとか、スポーツってものが全てあそこで生まれているわけですよ。全部、要は、メジャーなスポーツってみんなイギリス産じゃないですか。メジャーなジャンルもそうだし。だからそういうものなんです。余暇は初めて産業革命によって生まれたわけですよ。そして労働時間がまた飛躍的に短くなったはずなんです。生きるための労働の時間がね。代わりにそういう娯楽産業みたいなもの

のが産まれて、娯楽を提供するために労働する人たち、いわゆるサービス業みたいなものができてきたわけです。でもサービス業って、「生きるために必要なものではない」じゃないですか。本質的には。

——そうかもしれませんね。

娯楽の為にみんな働いているよなもんじゃありませんか。人間が楽しむために人間が働くみたいな状況になってるんですよ。だからもうある意味ゲームなのかな、っていう。それすらも。そういう風に考えると、まあみんな考えすぎなんじゃないか、っていう気はします。別に大したことやってるわけじゃないよ、みたいな。好きなことやって好きに金稼げばいいんじゃないのって。そんな大した話じゃないのにな……なんて僕なんか思ったりするんですけど。

——以前に「お金があれば何でも買える」というようなことを言ったらすごい非難されたことがあったわけですが、そのあたりはどうですか？

あれはね、ちょっと、言葉が間違ひなく誤解されてますよ。

——と、言うのと？

あれで僕は何を言いたかったかというところ、「お金は重要じゃない」ってというような道徳観がまずある、と。それを前提とした上で「お金は重要ではない」ということを教育で教えるがゆえに、お金の困って、色々トラブルを引き起こすケースが多い。だから、もっとお金の大事さを知った方がいいよって僕らのメッセージなんです。すよね、あれは。

——なるほどなるほど。

偉そうな言い方ですけどね……。

——まあそれを端的に言うところでああいう風になるのに、何か曲解されている、と。

あれはだから、編集者が要はああいう風に要約をしたんだけど、そのキャッチーなコピーを考えるっていう上で編集者がああいうものを作ったんだけど、本の中に書いてある内容を見ると、そういう事が書いてあるんですよ。つまり、お金ってというのは非常に大事なものだし、お金がないことでトラブルが起きるくらいだったらあった方がいい。もう一つ言いたかったのは、「お金で買えない価値」っていうのは、何か一見すると何か美しいモノのように見えるのですけれども、それはまやかして、実はそれは既得権者が、既得権を維持するために使ってるまやかしの言葉にすぎない

いんだよってことをわかって欲しかったってことなんです。

——というど？

たとえばステータスであつたりとか特権であつたりっていうものは、たとえば人的なつながりとか、血縁的なつながりがないと継承できないものだったりするわけじゃないですか。それは差別につながるんですよ。黒人に生まれたからどーのとか、白人に生まれたからどーのとかね、そういうものにすぐくっついてくる話だから。でもお金ってのは色がないから。フェアなんですよ、みんなが平等に競争ができるんですよ、実は。それはすごくフェアでいい物だから、これから新しく若い人間が何かを始めようとする場合には非常に使えるツールなんだよっていうのをわかって欲しいなっていう。「お金で買えない価値」とかいう変なまやかしの言葉に踊ら

されることなく、稼ぐときは稼いでおくべきだ、と。で、稼いだお金というのはやっぱり力になるから。それは差別とかを跳ね返してくれるから。僕なんかはやっぱり一人で会社を作って、若いときにやり始めた時にも、やっぱりそれは役に立ちましたからね。やっぱり社会的評価につながるし仕事も

やっぱり上手いきだすし……って、思ったんですけど、あんまりそういう風には捉えられないっていうか、揚げ足取りに使われることが多いですよ……。

■終身雇用制と実力至上主義について

——日本で一度バブルが崩壊してから終身雇用制というのが実力至上主義っぽいものに変わってきていますが、こういう流れに関してはどうお考えですか？終身雇用制と実力至上主義と、そのあたりについて。

終身雇用制っていうか終身雇用制っていうもののそのものよりも、その年功序列の給料システムとか、そういうものは破綻するんじゃないですか。なぜ破綻するかっていうのは、ネズミ講みたいなものだからです。年金とかもそうですけど……。人口は減ってい

くし、その中でも労働者人口はどんどんどんどんこれから減っていく、その上の人たちのポストも確保できないし給料ももちろん確保できないわけじゃないですか、現実として。そうしたら、まあ、実力主義にならざるを得ないですね。

——そうですね。

今まではそういう幻想を抱かせて、要は安くこき使ってたわけじゃないですか、若い層を。だから会社作ったときにそれはすごく大きいところがあつたんですよ。俺は損したくない、と。会社入ったばかりの時にね、20万くらいの給料でこき使われるわけじゃないですか、それがずっと上がっていかないわけですよ。50代・60代になったら年収200万になるって言われてもね、そんなジジイになって200万貰ったってしょうがない。単純にそう思います。た



堀江貴文

ぶん40年も働いて、今になって2000万貰ってるおっちゃんが、こういう話を聞くとすごいカチンと来るのだらうとは思いますが。まじめに働いて年収²⁰⁰⁰200万になっている人からすればこの主張は「ああっ？」

を僕は言いたかったんですよ。要は、会社を作って、30代・40代くらいでリタイアして、充分それまでの間に稼いでね、と。生涯賃金くらいは少なくとも稼いで、それを年を取ってから投資しなさい、と、若い人に伝えたいつもりだったんです。

——お金のサイクルを考えていたわけですね。

すよ。で、更に言う、自分たちが60代になる頃はそんなシステムが崩壊してるのは火を見るより明らかですね。だって人口が減っていくんだから。どう考えたって支えられないでしょ。どこからお金が降って来るんですかって話じゃないですか。それがわかってたから、会社を作ったんですよ。自分の会社を作って、実力主義の会社を作った。給料も同じ。だから、「早いうちにお金を稼いでリタイアしなさい」「それで好循環を作りなさい」ってこと

そう。お金のサイクルです、要は。永続可能なお金のサイクルを作ったんですよ。作った……いや、作りたかった、もっと言う。そうすると良い循環ができると思うのですよね。

——ライブドアがずっとまだあのままうまくいっていったとしたら、今言ってみたみたい20代で入社した人間も30代・40代・50代とかにヘ

タしたらなると思うのですけど、そうなった場合は社内システムと

してはどうするのでしょうか？老害はクビにするって言うのが極端ですけど、具体的にはどういう風になりますか？

リクルート社みたいなシステムが出てくるんでしょうね。当時、まだライブドアの平均年齢なんてのは30歳いてなかったぐらいでした。だからまだそんなシステムは必要なかったと思いますが、あと十年経ったら、そういうシステムを導入すべきだろうと思っ

みたいなのを言っていたのですが、堀江さん自身もこのまま何事もなくずっと生きていたら50代・60代とかになると思うのですけれども、そうなった場合でも世の中の流れというか、要するに最先端の感性には、なおついていけない、と考えての計画だったのですか？それともそのあたりは別なのでしょうか？

ていましたし、僕はそのころ居なくなってると思っていました。リクルート社なんかだと早期退職優遇制度みたいなのがあって、30代だか35歳になるときに辞めれば一千万だか二千万貰えて、っていう制度があるじゃないですか。あいう制度を作っていこうと思っ

いや、感性はついていけないんじゃないですか。うーん、感性はもしかしたらついていけないかもしれないけど、情報のインプットの問題なので。情報のインプットの量を維持できれば、なんとかなると思いますけど、体はやっぱり自由には動かないですよ、無理もきかないし、っていうのはあります。

——なるほど。今の話だと堀江さん自身が真っ先に辞めてしま

■政治と経済について

——またちょっと話がずれるのですけど、ブログでも結構書いていらっしゃるのですが、政治と経済というのは全く無関係というわけでもないじゃないですか。それぞれの関係性というか、堀江さん自身はどういうように考えていらっしゃるのかな、と。あるいはどのように把握されているのかな、と。

政治・経済の？

——ですね。政治と経済のつながりというか。散々ブログに書いてありましたけど、例えば「コンニャクゼリーにしろ何にしろ、規制する側から叩かれたりとかしてるのは全部ロビー活動が足りないせいだ」とかああいう感じですよ。

ロビー活動とかそういうものをやらなければいけないとかって考えにどうしてたどり着いたと

か、そういう話？

——そうですね。

それは、いつも考えてるからじゃないですか。

——やっぱり何か商売とかやってる上でそういうのがどこかの時点で障害になるんじゃないかとか、そういうことを予感したわけですか？

予感というかまあ、あれなんですよ。結局、いろんな媒体から情報を入れて、その情報を元にして分析する、みたいな。

——「㊦系もそのあたりののロビー活動が足りない」「だから規制される」みたいな話もブログにありましたけれど、逆に「㊦系はどうしてそういうロビー活動をしていないのだと思いますか、何か原因があるんじゃないかみたい

な。

うーん、そもそもそういうものがあるってことすら知らないんじゃない？だって僕だって知らなかったですから。

——なるほどなるほど。
そんなことをしなくちゃいけないっていう意識がないでしょ。

——それでも最近あれだけネット規制だとか、なんだかんだと言ってるってことはそのあたりも必要なわけですよ。

いや、だからこそ、やっと規制されてきたんでしょうね。要は「官」も、そこで問題が起きたりとか、そこが大きな利権化してないかぎりは首をつっこんでこないんですよね。最近はネット業界が大きくなってきて、なんか「上納金がねえな」とか、簡単に言う

とそういうことだと思います。

——なるほど。

ちょっといじめてやれ、みたいな。

——政治家として出馬しようみたいなのがあっていったのはそのあたりが原因なんですか？それともそういうのとは全く別個のものですか？

まあ、それは、やっぱりあの時に「出たいな」と思ったんですよ。ふつつと。

——出たいなと思った理由というか、きっかけになった何かっていうのはあるんですか？

まあ、やっぱりきっかけは「面白そうだな」ってのがあったんですけどね。

堀江貴文

——面白そうというど？

いや、選挙ってやったことないし、やってみたいな、みたいなの。

——なるほどなるほど。立候補する側として選挙に関わりた、と。

あとはその、やっぱり郵政選挙っていう論点もね、すごい見えやすいし。僕は基本的に賛成だったの。民営化も賛成だったし、その流れを僕はいいと思ったので、じゃあ参加してみよう、と。あんまり政治に参加するきっかけとしてこう、「俺と考え方が一緒だ」というのはないじゃないですか、滅多に。

——ないですね、確かに。

今の麻生総理の政策とか見ても、なんかイマイチだな、みたいな。絶対応援できねーよ、みたいな感じの人が多いから。でもあの

時は賛成できたんですよ。珍しく。

——ああ、なるほどなるほど。そういう事情だったのですね。逆に言うと、今後、もしもの話ですけども、政治家になるつもりっていうのは、あるんですかね？

ないですね。

——最近の政治にはそこまで魅力を感じない、みたいな感じですか？

いや、だから変えなきゃいけないのは変えなきゃいけないんだけど、まあもうちょっと、もうちょっとこう、考えさせて、ってみたいな。あれはあれで結構疲れるんですよね。

——あと、今は何も仕事をしていないといえちゃいけない、という状態なんですよ？

んーまあ、昔に比べたらやってないですよ。

——これからもし仕事をする予定れば、どのような仕事をする予定というか、考えというか、そういうのはあるでしょうか？大ざっぱでもいいのですけれども……

元々やっぱり、宇宙開発をやりたいから、それですね。もう今もちょこちょこやってますけど。本当はそれをメインの仕事にしてやりたいですよ。

——以前テレビで何かのインタビューでそのような質問があったときに、会社はもうしない、みたいなことを言っていました、会社という形ではなく、別の形で考えてますかね？

いや、まあどういう形でもいいんですけどね、それは。特に形にはこだわらないというか。

■仕事のスタイル

——ライブドアで働いてた時に、社内でもメールングリストってあったじゃないですか。社内全員の人が日報を書いて送ってきたのがずらずら飛んでくるという。一日に二、三千通くらい飛んでくるというところでもないメールングリストだったのですけれども、あれで私なんかはこまめにチャチャと、おはようからおやすみまで書いていたわけですが、そうしたらちゃんと、堀江社長からポーンって「あーこんなことやってんだー」ってメールが来て、びっくりしたことがあります。あれは要するに、全部見ていた、ということですよ？

でも、ちゃんと書いてる人少なかったから（苦笑）。ちゃんと書いてる人は結構目にとまるんですよ。



——なるほど（笑）

なんか面白いなーと思って。

——確かに少なかったですね。少

なかったというかほとんどいなかったですからね、ひどい日になると。それでも無数のメールの中から気づくというのはやはりすごいと思います。

結構みんないい加減に書いていたので、形骸化しつつあったのですけどね。

——形骸化しつつあったというところで、もしかしたらあのあと何かそれに替わるシステムっていうのも実は構想していたりしたのですか？

まああれはタイムカードの代わりでもあったんで、労働時間の計算をするためのシステムでした

ね。まあ、そこまでやることはないかなーと思ったんですけどね。まだまだ先じゃないですか、やるとしても。先だったのじゃないかな、たぶん。

——ライブドアという会社ではメーリングリストで意思疎通するのがメインで、さっきの話に出てきた日報にしろ、結構メールベースのシステムが多かったのですが、今はメール以外でも色々ツールがあるじゃないですか。ツールなりサービスなりが後々いっぱい出てきましたよね？今だったら、これはメール以外のものを使った方がいい、と思うようなものってありますか？当時もしもあったら仕事に使っていたであろうものとかは？

いや、今でもメールを使っているから、やっぱりメールじゃないですか？

堀江貴文

——やっぱりもう、メールの方が便利、と。

メールだけしか使わないですね。

——一応他のものとかも色々ありはするのですが……

何使います？

——GIGAZINEはメーリングリストトベースでずっとやっているの
で、せいぜいあとは編集部のWEBに情報をまとめている感じですね。

ああ、Wikiに情報をまとめた
りはしてますよ、Wikiは使ってますね。あとスケジュール表とか、
ぐらいですかね。最近携帯のスケジュールが便利なんで、スケジュールを今は携帯で管理してます。

——あと、堀江さんの机の上は何か結構ぐちゃぐちゃになっていたのですが、部屋の中も結構グチャグチャにしちゃう方なのですか？

いや、あれは（笑）。うちなんかはお掃除おばちゃんみたいの人に入ってもらってるんで、全然何もないです。きれいにやつてもらっているの、散らかってないですよ。

——あの机の上を見たときに、ぐちゃぐちゃにする人なのか、それとも忙しすぎてぐちゃぐちゃになっているのか、どっちなんだろうって思っていたので。

あれは忙しくて、ですね。かまってる暇はねーよ、みたいなのはありましたね。

——なるほどなるほど。

あとビルのお掃除をしてくれる

人も机の上はお掃除してくれないじゃないですか。

——確かに机の上はちょっと触れませんか。ということは、堀江さん自身は結構几帳面な方なのですか、どちらかというと。要するに、やる時間があつたら整理する、みたいな……。

たまーに。たまーにやります。思い立ったときにたまーに、ほんとに。物にもよるんですけど。半年に一回とか。

——あと、ライブドア自体がかなり大きくなって、会社の組織として端っこまで見渡せないくらい大きくなった、という感じが個人的にはしたのですけれども、あの時点でも、堀江さんから見た場合はそんなことはなかったのでしょうか？それともやっぱり、かなり見通しが悪くなったな、という時期だったのですか？要するに、会社

の内容をどのように把握していたのがちよつとわからなかったの
で。

把握？

——ええ。さっきは何か30人くらいのところでもまあ大体わかんなくなってきたかなーとおっしゃっていましたか……

いや、別にそうでもないです
ね。利益が出ている部分は、もういいや、っていう感じで。任せてりゃいいやつて感じでした。まあ、赤字部門が減ってきて良くなったな、みたいなのはありましたけどね。

——私が入社した時などは結構それぞれの部門について、これの担当の人はこの人、ほとんどのことはこの人が上から下まで全部決めるって感じで、かなり権限がドカッと任ざれるところと、か

思ったら、何かあんまりそうではない部署があったり……という風に、それぞれ部署によって権限の付与の差がけっこうバラバラだったのですけど、あのあたりは何か、要するにこら辺の部署はおまえ全部やれー、とかそういうのを決めるような基準ってあったんですかね？

儲かってるか、儲かっていないかでしよう。基本的に。

——儲かっていたらもうそのまま、どんどんイケイケ？

イケイケってか、もう、「お任せお任せ」みたいな感じですよ。

——逆に儲かっていない部署の場合、すると……

相当細くなります。経費節減しろ、とか。

——つまり、儲かっているか儲かっていないかが基準で、権限の付与が行われていたわけですね。

簡単に言うそうですね。

——それは端から見えてわからなかったですね。端から見ると、どうしてあの人はこれだけ任せられて、あの人の所はこんなに細かく指示が出ているのだろう？と不思議だったのです。

ただ単に儲かっているか儲かっていないかですよ。

——儲かっていたらその人に結構がつつり任せるっていうのは、それはもう、最初から会社の方針だったのですか？どこかの時点でその方がいいと判断したんですか？

もう、その、体がもたないんですよ。全部細かく指示を出して

やっていたら。

——確かに、24時間しかないですからね。任せるべきところは任せるという判断は、要するに「儲かってるんだったら任せといた方がいいだろう」という判断だったわけですね。

と言うか「まあ時間がないよ」という。そんなもの見てる時間が。

——そういう風に任せていたのですね。任せていても、どこかの時点で社長が決断する場面があると思うのですが、それともそういうものも基本的に任せてしまえる部署は任せてしまっていたのですか？

まあ、レベルの差はある、と思いますけどね。

——ぱっと見ていると、何か少しずつ地道に大きくなっていった会

社というよりは、結構同じペースにしろ、かなりガッツとジェットコースターの大きくなった会社だと思ったのですけれども、その一番上に立っている社長という立場から見ると、どういうように社内が見えていたのですか？あの六本木ヒルズの38階をドカーッと使っていましたけれども、それによって何か心境の変化などはありましたか？

あんまりないかなー、みたいな感じですよ。

——最初の頃のまま、どんどん人数が増えて大きくなっていったみたいな感じですか？

そのような感じですよ、イメージ的に。

——ああいう六本木ヒルズのワンフロアを借りたからといって、「ああ、何か感慨深いものがあるなー」

堀江貴文

とかではなく、全部その延長線上でずーっと来たって感じなんですかね。そのあたりの所の感覚というのはたぶん普通の人にはわからないと思うですよ。普通の人はいそこまで急激に大きくなった経験もないでしょうから。

そうですね、うん。

——普通の人に対して、あの時、ああいう会社の頂点に立っているってこんな感じだよ、っていうのを表す何か、言葉というか、言いか方というか、何かそういうのありますか。大体こんな気分だったーみたいな。多分普通の人だったらこういう言い方したらわかるんじゃないのかなーみたいなものってのは、ありますか。

いやー、あんまないですよ、ほんと。実はあんまり変わってないですから。あんまり気にしたことがない。忙しかったから振り返る

こともしないし、という感じですかね。

——予定のスケジュールリングなどは当時、どうやってしていたのですか？

なんか適当に入れてたんじゃないですか（笑）

——暇な時というのもあったのですか？

暇な時ってのはないですよ。会社に住たらずーっとメールを見てましたから。予定っていうのは、人と会う予定とかがあるわけですよ。人と会ったりとか、諸々、外部の人と会う予定、とか。あと会議が入っているわけだから、その時間はメールできないじゃないですか。だから、ずっとメールしているわけですよ、それ以外の時間。





堀江貴文氏がライブドア社長だった頃メールの
処理は1日平均5,000通だったという

——そのメールしていない時間以外はそのをせざるを得ないから、それ以外の時間はメールをずーっと見ていくことになってしまう、と。

そうそう。だからメールできる時はずーっとメールをやっていた。出張先でもずーっとメールしていましたし。

——それであんなにたくさん処理できたんですね

そうですね。だからメールを家に帰っても見る、という次第です。

——ずっと仕事しっぱなしって感じですね。

朝起きてもすぐに見ていることがありますし、ずっとメールやっていますよ。ずっとメールやって、会議とかやって、移動中は雑誌とかずっと見たりとかして、みたい

なのがずっと続いている感じですかね。だから本当にメールとかを一日見られない環境に入ると、相当大変でしたね、あとで処理するの

——溜まってしまいうけですよ。あと、メールは全部読んでいたということになるわけなのですが、どうやって処理していたのですか？

まあ大体読み方はあって、タイトルだけ読むとか。大体類型ができるじゃないですか。それでも結構、残ってるメールがあって。なんというか、すぐに処理ができないメールとかがあって、どうしようかこれ、みたいなものもあります。そういうのはずっと何日も残っていたりとかして、気持ち悪いんですよ、ね、それが残っていることが。——あと仕事をしていて印象的だったのが、ライブドア各部門の

トップの人と一緒に堀江さんが会議に行って戻って来るときに、「どうしてこのライブドアのトップページはこんなに表示されるのが遅いんだー!!」ということに激怒して怒ってるときがあったのですけれども、あれは何か、基準みたいなのがあったのですか？ライブドアのトップページは何秒以内に表示されるべき、みたいな。

ないです。感覚です。

——感覚的に遅かったらもうアウト、という感じですか？

うん、もうアウトでしょ。トップページが遅かったら。それはすごくこたわってましたね。

——普通の人にはあまりそのあたりのコダワリがちよっとわからないと思うのですが、スピードに対するこたわりみたいなものはどうですか？

堀江貴文

だって自分自身のことを考えればそうなるじゃないですか。遅いサイトとかもう二度と見ないじゃないですか。もうスピードはとにかく重要で、スピードはとにかく早くないとダメだっていうのはめちゃくちゃこだわってましたからね。

■ビジネスとしての工夫いろいろ

——個人的にすごく印象に残っているのが、ライブドアって38階にあったじゃないですか。そうすると、お昼休みになっても下のコンビニ二まで降りていくのにすごく時間がかかって、これだけで15分くらい往復だけで食っちゃうから、これ何とかなりませんか、みたいな話を誰かが堀江さんにしたら、「それだったら下からコンビニ引っ張ってくりゃいいじゃん」って言って、翌日のうちには小さいコンビニっぽいもの、いわば「ラ

イブドアコンビニ」みたいなのが38階の会社内にできたというのがあってびっくりしました。その行動力の早さと実行力に。

できてましたね。あれは早かったですよね。言ったらすぐやっちゃったね、担当者が。

——堀江さんが言いに行っただじゃなかったんですか、あれは？

下に言いに行っただのは僕じゃないですよ、覚えてないけど（笑）あれ、マージンが会社にキックバックされるようになってたんですけどね。ここで商売させてあげるから、ということ。まあ、マージンは安いんですけど、結果的に社員にとっては安い価格でお弁当とかが購入できて、なおかつ時間もセーブされて、便利は便利で良かったですよ。

——ものすごく便利でした。本

当に有り難かったですね、あれは確かに。

そういうのは色々考えていたのですよ、いつも。経費削減と福利厚生をどうやって両立させるか、みたいなものについては、あれは結構いいアイデアだったですね。

——他にもいいアイデアあったのはあったのですか？

実現しなかったのだけど、福利厚生について、健康保険もちょっと考えてた時期がありました。

——と言うと？

当時もう既に東京都小型コンピュータソフトウェア産業健康保険組合（現…関東コソフトウェア健康保険組合）みたいなものに入っていたわけです。あれはいいんですよね、やっぱり。普通の国

民健康保険より安いんですよ、保険料が。なぜかというと、被保険者がみんな若いからです。

——あ、それで安かったんですか

そりゃそうですよ。だって国民健保は、老人までみんな日本の平均年齢と一緒に、当然医療費だって高いわけですよ。健保組合の中でも、その小型コンピュータソフトウェア産業健康保険組合ってのは非常にいいんですよ、みんな病院行かないから。医療費がかからないから、結果として厚生がすごい充実して、しかも保険料が安くなるのですよ。最近は何か政治的にその企業の健保組合に国民健康保険の赤字を负担させるとかそういう政策が通るようになって、めちゃくちゃなこと、それそうになってましたけど。あと、さらにライブドアのグループの健保組合作るうとしてたんですよ。

——そうなんですか？

そうすると更にまた平均年齢が下がるから、安くなるわけです。安くなるというじゃないですか。で、健保組合のシステムとか、そういうやつも全部ライブドアグループで一括受注できるから、さらに安くできるはずだ、と。

——人数も結構いましたからね。

そう。それで健保組合を自前で作るのはいざいいな、と思っていたのでしょ。いろいろな買収も結構しましたし、人数も増えていましたし、全部足すと何千人と社員がいたので、組合作れるな〜みたいなのもあったんですけどね。それはちょっと、まだ実現する前にアレだったんですけど……。

——他にも何か福利厚生でこういうの考えてましたっていう面白い

アイデアって何かありますか？

後は普通に、もともと一番最初に考えたのがあれじゃないですか、家賃保証。

——ああ、ありましたありました。

準社宅扱いにするやつね。あれは会社側もメリットがあったんですよ。

——と言うと？

たとえば給料が20万だとして、家賃が10万円だとするじゃないですか、そうすると5万円会社負担になるわけですね。要は5万円天引きされたところが、給料の計算になるんですよ。しかも折半だよ。その分は課税されないんですよ。経費扱いにできるので。15万円が支給されて、それが課税所得になるので。まあ15万だとほとんど課税されないと思うのですけど、丸々入ってくるじゃないですか。でも20万もらったら、ちょっとやっぱ課税されて十何万とかになって、中から10万払うから、実入りが少ないじゃないですか。だから準社宅の制度を作ったんですよ。

——その制度を作ったのはいつ頃なんですか？

けっこう前ですね。1997年とか。

【写真】堀江貴文氏がライブドア元社長が社長
職の時に勤務していた六本木森ビル

Photo by hide

<http://pics.livedoor.com/u/hide3413/4010850>



堀江貴文

——かなり最初の頃ですね。

結局、あと当時はまだ僕の会社小さかったんで、人がこうなかなか定着しなかったんですね。人を定着させるっていう目的も一つはあったんですよ、その準社宅制度みたいなので。会社でその社宅を借り上げてつてなると要はお仕着せになっちゃうから、勝手に契約ということにしよう、と。まあ会社と契約をしようっていうことにしたんですけど。あとは託児所作って欲しいって言われたこともあるんですけど、託児所作るのは非効率的だから、何かたぶん補助制度だったと思うけど、子ども一人できたらいくらみたいなのをしました。

——あと個人的に印象深かったのはあれですね、パソコンの購入金の補助制度みたいなのがあったので利用していたのですが、あれはいつ頃できたのですか？

あれも結局、パソコンを会社を買わせることになる、プログラマとかデザイナーとかが当時のライブドアは多くて、マックのめっちゃくちゃに高いのとかを買おうとするんですよ。そんなの買われたら、たまらんじゃないですか。いちいち却下するのもめんどくさいから、もう普通の一般社員は年に十万ずつ払うから、もう好きにしろよ、と。二年分貯めて二十万円でパソコン買ってもいいし、そのあとはもうパソコンずつと買い換えないでやるのもそれは個人の自由でしょ、と。十万ずつあげるよ、と。極端な話、会社のパソコンを私用で使ったってわかんないじゃないですか、そんなの。家に持って帰るだろう、と。まず根本的な考え方として、家に持って帰るのを規制しなくなかったんですよ。事件の時には誤解をうけてしまうような内部資料を持ち出した人が検察にタレ込むみたい

なことをしたから、それが逆に仇になって、何かいろいろごちゃごちゃやられたっていうのも、もちろんあるのだけれども。そういうのはやりたくなかったんですよ、検閲みたいな。楽天とかはやっていたらしいんですけど。楽天はパソコンを持ち帰らせないそうなので。

——あ、そうなんですか？

そうなんですよ。資料も一切持ち出し禁止だそうです。そういう意味では会社を守ってますよね。僕はそういうのはやりたくなかったんで、もう、自由意志に任せたんで、と。みんなのモラルに任せたっていうのがあったから。パソコンは私物でも、会社のものでも、わかんないでしょ、みたいな話ですよ、ね、要は。

——まあ普通はわかりませんもんね。

実際ごっちゃじゃないですか。コンピューター会社の社員なんて、みんな好きでその仕事をやっているわけですから。

——ええ、それはありますね。

それを会社のパソコンと、家のパソコンと、というようにして分けること自体があんまり意味ないでしょ、っていう話なんですよ、要は。ナンセンスなんですよ。実際自分のノートパソコンを会社に持ち込んで仕事してる人もいっぱいいましたし。もしかして、会社のパソコンって要らないんじゃないの？みたいな話から来てるんですよ、実は。

——ああ、なるほど。そのあたりの話っていうのはいつ頃からそういう風になったのですか？

へ、3年前とかだったと思います

す。多分例の事件があった2年か3年前くらいに僕が思いついて、色々反対されたんですけど、絶対その方がいいでしょ、っていうのを力説したわけです。

——働いてる側からしたら、あれは非常にいい制度だと思いましたね、確かに。

だからまあコンピューター会社の人間にしてみるとね、それはいいねって言うってくれる人は多いと思いますよ。だって、何か変な会社の古いパソコンとか使わされても困りますから。正直困るでしょ？

——困りますね、そういうのは。このパソコンを使えて言われても、これだったら自分のパソコンを持ってきた方が作業が早いのですけど、という場合がありますね。

あと、パソコンを触ったことが

ないという人はあまり入ってこないんですけど、パソコンを持ってないんです、みたいな人にはとてあえず会社で昔に買ったパソコンのストックをあてがっておくみたいな感じにはなってたんですね。

■ホリエモンの生き方、本音で生きていること

——あと、またちょっと話がずれるんですけども、堀江さんってけっこう本音で物をしゃべる方じゃないですか。ブログなんてモロにそのまま本音であるって誰が見てもわかるような書き方でドドドドッと書いてあるんですけど、日本では逆に何かああいいう本音でモノを言う文化があるようなないような感じですよ。ネット上ではみんな本音を出しまくりの罵詈雑言な感じになっちゃっているのですけれども、逆にリアルというか、現実で面と向かって本音を話

す、公の場で本音でものを喋るというのは少ないじゃないですか。そういうことについて、堀江さん

自身は今後、本音を言う自分自身について、今までと同じスタンスで行くのか、それともある程度慎むべきは慎んだ方がいいと考えているのか、どっちなのでしょう？か？ブログを見ていると、昔と全然変わらないうー、と思うのですけれども。

ただ前よりもその説明を細かくするというか、丁寧にするのを心がけてますけどね。

——と言うと……？

いや、だから、ぶっきらぼうだったな、っていう……以前は。ぶっきらぼうで誤解されてる部分も多かったんで、きっちり説明しよう。意外とみんな、わかんない人多いな、みたいな感じですよ。あれだけ説明しているのに、コメント

に何か訳わかんないことを書いてきて「ええっ?!」みたいなものがあります。

——あ、いますねー。ブログのコメント欄を見ていると。

たまに居るでしょ？

——ええ。「一体おまえは何を言ってるんだ?」「何をどのように読んだのですか?」ってやつですよ。ね。

いるんですよ。だからまあできるだけ丁寧に。

——やっぱりそのあたりを心がけて今はブログを書いている、と。

そうですね。言っていること自体は、僕はそんなに間違っていることを言ってるつもりはなかったの、それをあえてこう、オブラートに包んだところで何の意味もな

堀江貴文

いな、ど。それよりは、その本音の部分をつっちり説明していきたくないって感じですかね。

——そのあたりの本音の部分を今出したほうがいいだろうって判断はどういうようにして至った結論なのでしょう？つまり、堀江さんの今のスタイルというか生き方ですけれども。それとも、昔からなんですかね？

まあ、そうですね。

——割と昔の、小さいころから？

我慢することによってストレスを溜めるよりは、言った方がいいなっていう感じです。言って反発を受けた方がまだいいっていうスタンスです。

——という、何か今までもそういうことを言って反発を受けているというのは、逆に言うと、覚悟

の上なの、ということでしょうか？

まあ覚悟の上ですね。覚悟の上っていうか、反発は受けますよね。普通に。

——まあ出る杭は打たれるみたいな感じになっちゃいますけれども、逆に出る杭が打たれて何が悪いって感じではあるんですね……耐えられるから問題ないという感じですか？ブログでも結構そんなことを書いてますが。

まあそういうことになりますかね。

——あと最近はブログ炎上とか、正しくはブログ炎上って何がブログ炎上なんだかよく意味がわからないんですけど、ああいううなのを見ていると、普通の芸能人ブログとかであれば、本音で書いたりすると非難するコメントが

六本木で働いていた元社長のアメブロ

一般的には、ホリエモンとか堀江とか呼ばれています。真実を受け付けてません。全て噂話（リクエスチョン）でおねがいします。コメントはリアルタイムには反映されません。

Amazonマイストア

★特集:売れ筋2009.2★

取材などの問い合わせは
堀江貴文事務所広報
info@takapon-jp.comへ。

★プロデュースしました★
漫画が便利に買える
mangaman.tv

ウェブ全体検索 by Google
Google カス 検索
ブログ内検索 by Google
検索

私のおすすめ本とか

日経 神話-伝説-記述-
安部 貴文 (文庫 - No...
¥ 620

イキガミ-遺囑主-
堀江 貴文 (コミック - ¥ 530
★★★★☆

快子の旅 VOL.1
TVアニメ・映画主演...
¥ 4,826
★★★★☆

マインド・ウォー
ジョン・D・モレ...
¥ 2,604
★★★★☆

読者の声 (4)
新本 橋子 (文庫 - Ja...
¥ 600
★★★★☆

「あ、安部礼司」...
安部礼司 (大塚本 - D...
¥ 3,150
★★★★☆

前田 次郎 (文庫 - Ja...
¥ 720

メディア出演予定

★ウェブ動画/TV関係

Policy Watch

「たかじんのそこまでやって委員会」(動画サイト)

堀江貴文(ホリエモン) 渾身の書き下ろし!『徹底抗戦』イン

タビュー

★ウェブ雑誌関係

新聞やテレビが絶対に書かない「ホリエモン」こと「堀江貴

文」の真実～ロングインタビュー前編～

新聞やテレビが絶対に書かない「ホリエモン」こと「堀江貴

文」の真実～ロングインタビュー後編～

★雑誌

本人 vol.09

○新刊

徹底抗戦

posted with amazlet at 09.02.26

堀江貴文

集英社

Amazon.co.jp で詳細を見る

1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 最新 次ページ >>

2009-03-08 14:27:30

日経BP幹部の意見が激しく狭い件について

テーマ: マスコミ批評

旧知の某氏から取材依頼が来たので快諾した。「徹底抗戦」の取材はしてほしかったからだ。日程が決まり、カメラマン、担当編集者がアサインされていた。日経BPの上層部が、

「裁判の決着がついていない中で、バランスを欠いてしまう可能性がある」

PR



格安印刷サイト<スプリント>

WEBで印刷をカンタン発注! 高品質オフセット印刷が最速10時間納品!

www.suprint.jp

[FlexScan]新商品好評発売中!

S2242W直販限定モデル発売中! HD2452Wご購入で今だけWinDVD9プレゼント!

direct.elizo.co.jp

フライヤー印刷ならプリントビズ

コロミで人気・プロ御用達の印刷通販! ポイント

09-27-44101-1000(代)03-7212-1111

カレンダー

<< 3月 >>
日 月 火 水 木 金 土
1 2 3 4 5 6 7
8 9 10 11 12 13 14
15 16 17 18 19 20 21
22 23 24 25 26 27 28
29 30 31

ブログテーマ一覧

堀江貴文氏が執筆しているブログ

『六本木で働いていた元社長のアメブロ』

<http://ameblo.jp/takapon-jp/>

殺到して「炎上」という現象が起
きるじゃないですか。それでも堀
江さんのブログは同じように本音
を書いていても炎上がほとんど起
きないじゃないですか。そのあた
りの差というのは何が原因だと思
いますか？

まあやっぱり、ちゃんと考え
て書いているからじゃないんです
か？

——逆に言えば、炎上している人
はそのあたりの考えが足りないとい
えば足りない、と。

結構不用意に言う人は多いで
すよね。あとネットの人がこう、
キーッて思うようなことを、ま
あ書かなきゃいいんじゃないです
か。あるいは書いても、すぐに反
応するとか、反論するとかをしな
ければいい。

——なるほど。あと堀江さんは
けっこう昔からネットをやってい

ると思うんですけど、ネットを利
用する人というのは確実に変わっ
てきていると思うのですが、どう
いうように、堀江さんから見たら
ネットを使う人は変わってきてい
るのを見えますか？

そんな変わってます？わかん
ないな、あんま考えたことないで
すね。

——要するに昔のままと言ったら
変だけれども、まあそういうよう
に意識したことはない、と。

うん。

——結構本音で物を言った後で
「しまったー」ということもある
のですか？それとも、そんなこと
はないのでしょうか？

最近はないですね。

——ということは、昔はそういう

ことがあったのですか？

それは、もっと、こう前ですよ。
二十歳のころだとか……。

■ホリエモンの考える友達・友人・ 親友

——一般的なメディアの報道では
全然わからないのですが、「友達」
というのはいるのでしょうか？あ
るいは「親友」と呼べるような存
在などは？

友達はいますね。でも、親友は
あんまりいません。いないとい
うか、少ないですね。

——少ないといっても、たぶん人
によって数が全然ばらばらだと思
うのですが、どれぐらいですか？

まあでも何人か、くらいじゃな
いですか。



——堀江さんの定義する、親友の
定義って変ですけども、こうい
うヤツは親友だね、っていうのは
どういような人を親友という風
に認識しているのでしょうか？

そういう意味では本当に少な
いと思いますよ。いないに等しい
かもしれないな、何でも話せるっ
ていうのは。何でも話せるって言
うか、携帯で、ああー、みたいな
感じで話せるとか、っていう話に

堀江貴文

なっちゃうかな。

——親友みたいなものっていうのは、昔に作った親友なんですかね、それともそうではない？

いや、昔の友人は価値観が変わってきているからなかなか難しいんですよ。住むところとかも違うし、今やってることも違うし、立場も違うし、なかなか、そうなりづらいというか。誰かね、ある人がこういう風に言ったのを聞いてすごい楽になったんですけど、「友達っていうのは、別に、何年也会わなくなっていくんだ」と。

——いい言葉ですね。

だから、別に五年ぶりに会ったって、友達は友達なんだよ、みたいな。

——ああ、それはありますね、確かに。

毎日連絡するのが親友じゃねえよ、みたいな。

——それはありますね。

そういう意味で言ったらいいのかもしれない。そういう分かり合えるっていう意味で言うとか。

——そういう意味で言えば、結構もつとっぱいいい、と？

でも一般的な親友の定義とはちよつと違うような気もするけど、それが実は本当の友達のよくな気もするんですよね。だからずっといつも一緒にいて、いつもつるんでるつてのが本当に友達なのか、っていうのはあります。

——なるほど。

何かその友達関係を維持するた

めにみんな努力したりするじゃないですか。

——ああ、なんかそういう変なのがありますね。

ね？そういうのは本当の友達じゃないんだろうなー、みたいな。ふつと思ったときにこう、連絡をする、みたいなのがいい友達なんだと思います。



今回のロングインタビューの会場

